

景観づくり審議会における意見についての見解（案）

①「(仮称) まち並み景観賞」の名称について

(1) 審議会での意見（主に名称について）

- ・「まち並み」の定義はまちの様子という気がする。
- ・風景というと連続性を感じないので、「まち並み」ではそういう場所を評価できないのでは。
- ・「まち並み」というのはかなり（対象を）制限するような印象を与える。
- ・「景観賞」で良いのではないか。
- ・メインタイトルを「文京区景観賞」とし、その下に「文の京都市景観賞」を創設する。 など

(2) 事務局の見解

- ・確かに「まち並み」という言葉は、建築物や自然などが一体となっている連続的なまちのまとまりが感じられるようなものであるとの印象を与え、建物や樹木など単体のものは含まれないと思われる可能性は十分にあると考える。
- ・そもそも文の京都市景観賞という賞の下に4種の賞があることが分かりづらくさせている。

(3) 事務局案

- ・文の京都市景観賞が一つの賞なので、その下にさらに景観創造賞等の「賞」というものを位置付けるのではなく、「部門」という考えに改め、景観創造賞、ふるさと景観賞、景観広告賞を統合した「都市景観部門」を新設する。
- ・各部門の名称は以下に示すように大きく3部門。

1	都市景観部門（建築物、樹木、坂道、広告物など）
2	景観づくり活動部門（これまでどおり）
3	こども景観写真部門（児童の撮影した写真）

※「都市景観部門」に建築物の応募があった場合、自薦・他薦を問わず、以下に示す建築計画の規模により対象を分けて選考する。

- ・A 規模（敷地面積 200 m²以上の建築計画を対象）
- ・B 規模（敷地面積 200 m²未満の建築計画を対象）

(4) 「都市景観」の文言の重複について

- ・「都市景観部門」の新設により、「文の京都市景観賞」と「都市景観」という文言が重複することになる。重複することで問題となることはないが、文京区の景観賞という意味合いから、主たる賞の名称から「都市」という表現を外し、「文の京景観賞」にするということも考えられる。
- 「文の京都市景観賞」か「文の京景観賞」のどちらが良いか。

②「(仮称) こども景観写真部門」の表彰対象者について

(1) 審議会での意見

- ・小学生のみを対象とするのではなく、中学生も対象としたらどうか。
- ・学年別に分けても良いのではないか。
- ・甲乙付け難いものがあれば複数に賞を与えたらどうか。 など

(2) 事務局案

- ・実施内容については、今後の状況等により見直しを行っていく。
- ・学年別にはせず、子供の視点から景観を撮影している、応募作の中から複数(3作まで)を受賞作品とすることができるよう、運用上定める。

③景観の簡単な説明について

(1) 審議会での意見

- ・ポスターやチラシを作成するときに、景観という言葉の説明を分かりやすく伝えるようにしてほしい。

(2) 事務局案

- ・「景観とは、建物や看板、木々の緑だけでなく、まちや人々の賑わい、公園で遊ぶ子供たちの姿といった活動など、私たちが日ごろ目にしているまちの様子や風景を表す言葉です。」との説明を募集のパンフレットに記載する。

④選考基準について

(1) 審議会での意見

- ・基準は包括的なものがまずある、という扱いがいい。
- ・基準というより、判断の目安とすると例示的で扱いが軽くなるのでは。
- ・一番に来る基準が一番大事だと思うので並び順を考えて。
- ・基準の根本は継承だが、新たな魅力を捉えるというように、発展的に捉え直す。
など

(2) 事務局の見解

- ・形式的なことであるが、要綱に定めるものとなるため、「基準」のままとする。
- ・これまでの基準を継承するとともに順番も考慮した。

(3) 事務局案

都市景観部門			
新たな景観の創出や隠れた魅力を再発見するなど、「文の京」にふさわしい景観を形成しているもの			
1	形態や意匠が優れ個性豊かな都市景観を形成しているもの	5	区の景観特性である起伏に富んだ地形を生かしているもの
2	歴史性、文化性に配慮し良好な都市景観を形成しているもの	6	連続性や一体感により区の魅力が生かされているもの
3	地域の特色をデザインに生かし良好な都市景観を形成しているもの	7	緑豊かなまち並みを形成しているもの
4	他の模範となるもので良好な都市景観を形成しているもの	8	うるおいとやすらぎのある景観を形成しているもの
景観づくり活動部門		こども景観写真部門	
住民及び団体の活動を通じ「文の京」の景観づくりに貢献しているもの		児童の視点でまち並みやまちの賑わいが撮影されているもの	
1	独創性のある活動を現在まで継続的に行っているもの	1	児童が撮影したもので、構図やアイデアに児童の感性が活かされているもの
2	活動内容が周辺住民の理解を得られやすく誰もが参加しやすいもの	2	建築物や自然、人々の活動など、区の景観特性を表現しているもの
3	行政、NPO、企業等、その他の活動団体との連携が図られているもの		
4	活動の認知度や評価が高く景観づくりの普及に貢献しているもの		